

敬
学
会

Note—Book

Made of Paper
Specially Prepared in Tokyo



ファンデルセン
童話の研究

五年—組

山路登志子

敬学会賞第十九回入選作品

Fine
大学
30

36

アンデルセン童話

37

アンデルセン童話

38

つかったさんこう書
お世 話になつた人

アンデルセン

70-ジ

2

石研 究 の 動力機
石研 究 の 方法

3

マイカのぼうけんについで(1)

4

マイアのぼうけん

5

マイアのぼうけん

6

マイカのぼうけん

7

マイアのぼうけん

8

人魚のめについで(2)

9

人魚のめ

10

人魚のめ

11

人魚のめ

12

人魚のめ

13

マイアのぼうけんのかんそう文(1)

14

人魚のめをよんで(2)

15

16

はだかの王さまについで(3)

17

はだかの王さま

18

はだかの王さま

19

はだかの王さま

20

はだかの王さまをよんで(3)

21

22

みんなのしつりる童話(4)まとめ

23

みんながちよとしらた童話(5)

14

ひみつ (1)

25

ひみつ

26

ひみつをよんで(1)

27

五十金 ぎんか (2)

28

五十金 ぎんか

29

五十金 ぎんかを言売んで(2)

30

みんなあまりしらたない童話(1)

31

アンデルセン童話についで(1)

32

アンデルセン童話についで(2)

33

アンデルセン童話についで(3)

34

アンデルセンの研究をして(1)

35

アンデルセンの研究をして(2)

石井 究 の 動 機

1. わたしは 童話 が
すきだ
2. 図 書 かん で デイズニー
の 研 究 を み て や っ て
み た い と 思 っ た。
3. 楽 し み な が ら できる
4. 国 語 の 勉 強 も できる
5. か わ っ た 研 究 を
や っ て み た が っ た。
6. た る べ く あ き な い
も の を や る こ と に
し た。
7. 自 分 が す き な も の を
や る。

石井 究 の 方 法

1. まる が 代 々
書 み 表 的 な も の を
2. 2 に つ 感 童 話 を 書 く こ と
に 文 を 書 く
3. 図 書 かん で 本 を かり
ま た は 読 む。
- 進 め 方
1. 童 話 を 書 く
2. か ん ぐ う 文
を 書 く

みんなが知っている童話 (1)

マイアのぼうけんについて

マイアのぼうけんとやうと知らない
人が多いと思います。

けれどもおやゆびひめとい

えばわかると思います。

でもほんとうの正しい名まえ

はマイアのぼうけんが正しい

なまえです。

おやゆびひめといえは

そのデメルセニ童話とすぐわか
ります。

わからずよいでしょう。

また知っている人もいると

思います。そのお話の

さっさか、アンデルセンと

いうことは知らずい人が

多いと思います。

マイアのぼうけんの

マイアは花の中から生まれ
ました。

マイアを一番はじめに育ててくれ
たのはある女の人でした。

この女の人には子どもがほしくて
たまりませんでした。そして

毎日おまいりをしていたところ

とうとうおやゆびほど小さい

女の子がうまれました。

おくさんはさっさくマイア(おやゆびひめ)
と名をつけてもらいました。

ある夜くるみのガットで

ねていたらひきがえるが、マイア
をさらってしまいました。

マイアが目がさめるとはすの
けのうえでした。マイアがひき

だしたのでこのひきごえを

きいてたすけてくれました。

しかし はるのばは、マイアを
のせたまますいすいと川をなが
れていきました。

すると一晩のあぶがとんで
きて、「ばくのおよめになつてもらおう」と
マイアをながまのところへつれて
いきました。しかし少しばかりに
されたので、とうとう地面に
たげだしてしまいました。

マイアは、やっとあるいてもぐらの
家につきました。そこでつかって
もらうことにしたのだが、
あるときもぐらのおよめになる
ことになつてしまいました。

あるときもぐらの家につば
めがたおれていました。

マイアは、いっしょうけんめいに
かんがえました。

きょうがけっこんしきという日に
つばめが元気になりました。
つばめはマイアに「いっしょに南の
国にいきましょう」といいました。

マイアはもぐらのおばさんに
わるいと思いました。

しかし大すきな木ようを
みられなくとなると思うと
かなしくなりました。

とうとうマイアは、おばさん
に「わるいけどつばめといっしょ
に南の国にいきました。」

つばめは、南の国へまっしぐらに
とびました。

南の国は、うつくしくにでいて、
きらきらかがやいている木や
草花がみだれな花が

その花の中におまゆびほど

小さい花の王さまがいました。

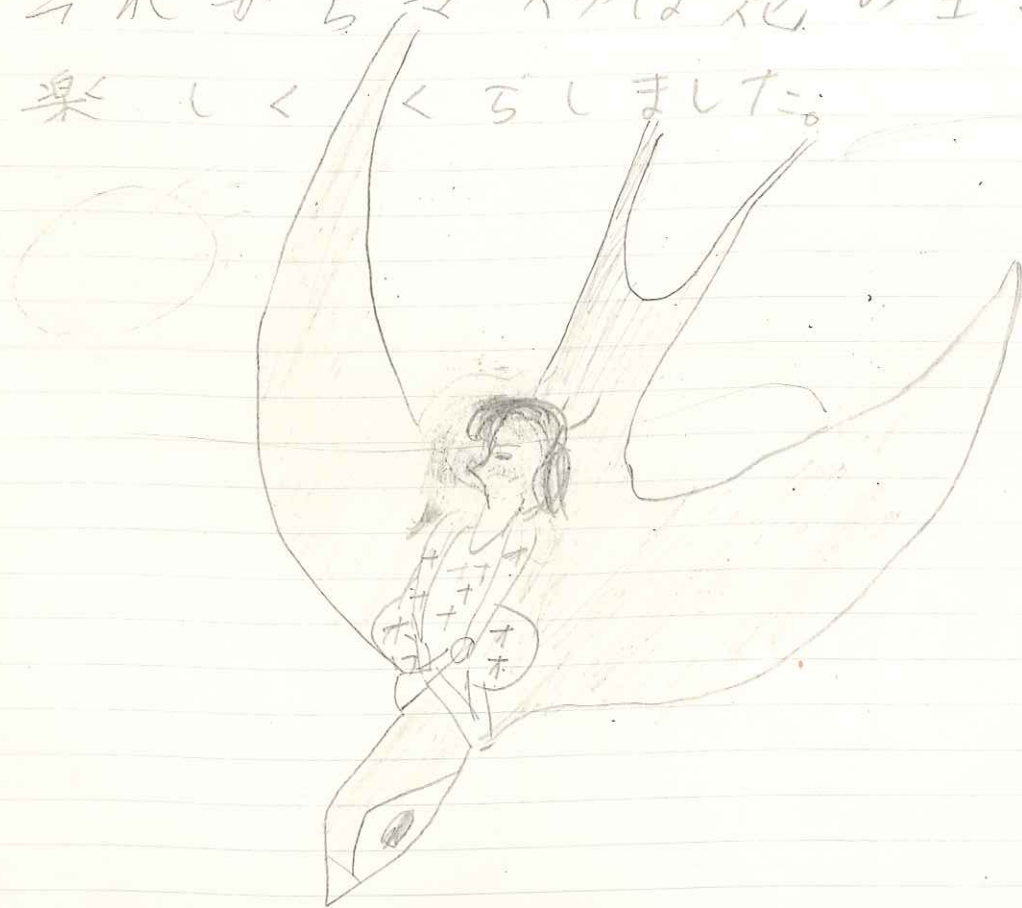
白くすきとおったはねのはえでいる
うつくしい王さまでした。

それからまもなく花の王さまに
のびまれてけっこんしました。

王さまは、アイアにもうつくしい

白いはねをつけてくれました。

それからアイアは花の王さまと
楽しくくらしました。



みんなの知っている童話 (2)

人魚姫について

このお話もみんながしっていますね。

この人魚姫はアンデルセンの特色
をはっきりうちだしたけっさくで

この作品によってアンデルセンは
童話作家として世界にカガヤ
しい名をとりました。

人形姫のお話は

人形姫が王子のために

しんでいくお話です

人魚ひめ (2)

ずっととおくのふかいふかい
るりいろの海のそとににんぎよの
王さまのおしろがありました。

にんぎよの王さまは、はやく
おきさ~~き~~をなくしていまは、

としとったおばあさまと六にん
のかわいらしいおひめさまとくらしていま
した。

またひめたちは、十五になれば
海のの上にうかべあがれます。
六にんのひめはみんなきれい
でしたが、その中でもいちばん
のひめが、いちばんきれいでした。

やっとひめが十五になり
海に上がりました。

一ばんさきにひめが心をひか
れたのは三本くスト船でした。
中でもひときわめだつてりつは。

だったのは、すんだくろい目をした
わかい王子さまでした。

にんぎよひめは、その王子さま
から目をばなすことができなく
なつてしまいました。

ところがきゅうに大あらしになり、
みるまに船はよこたおしにたつて
しまいました。

「王子さまが、しんがしまう。」

にんぎよひめはむちゅうでなが
れついるざいそくを、かきわけた
がらやっと王子さまを見つけました。
にんぎよひめは、王子さまをたすかか
え、いっしんにおよぎました。

やがてあらしはおさまりました。
まもなく、白く大きなたつものの
中から五六人むすめがやつて
きました。

王子さまをびっくりしてすぐに
かいほうしました。

王子さまは ようやくきがつきました。
でも人魚ひめは ほほえみかえま
せいでした。

にんぎょひめは、かなしげに水の
中に、しずみ 海のそこのおしろに
かえ っつていきました。

にんぎょひめは 心 の中で

王子さまのことをばかりかいて
いました。

とうとう人魚ひめは人間になる
ために まじよにたのみにいま
した。

人間 になるために 声をとられて
しまいました。

人ぎょひめは 王子さまに
たすけられました。

人形ひめが口がきけないうこと
わがったが、王子さまは、やさしく
かわいづつ くれました。

しかしまゑと、にんぎょひめが、
王子と けっこんしたいで、べつ
た人 と けっこんすることに
なれば、つぎの日はあわによつて
いんでしまふだろうといわれた
こと かしこいのでした。

ところが あるとき、王子さまは
王女さま(とよりの国)の王女と
けっこんする ことに たり
ました。

人 魚 ひめ は、口がき
け たら、と、思いました。

にんぎょひめはかなしみに
く ん ました。

とうとう けっこんする夜の

に、おねえさまたちもきました。
おねえさまたちは、長いおみのもを
まじよにやり人魚ひめを
たすけるためにかたすゝを
もらってきました。

日かんのほうでないうちに王子
さまの心ごうをさせば、
人魚にもどれるというので、
しかし人魚ひめは、そんなこと
は、づきません。日かんのほう
りました。人魚ひめは海に
とびこみました。しかしおわの
中から人魚ひめから、だは
ねけだし天使といっしょに
天国にいきました。



-14- マイアのほうけんを感想 よん一 (1) 文

マイアは、花の中から生まれた。
花のとびらがふやっとおいて、
マイアが見えてくるところは
とてもすばらしかったと思う。
だが、あぶから地面に、
ほうり投げたで、いく月
かもあるき、やっともぐらいえ
にたどりついたときは、ほっとした
と思う。でもそれもつかの間
まもなく太陽とお別れして、
さびしいくらぐらいいもぐらのいえの
およめになるときは、どんなきこ
ちだったろう。しかしマイア
は、つばめをいっしょうけんめい
に、かんびようしたおかげで、
つばめから、助けてもらって
よかったと思う。やはりマイアは、
くるしい目にあつたけれど心が
美しかったので、しわあせになつたの
だ、ろうと思う。

人魚ひめをよんで(2)

感想文

人魚ひめは、やはりアンデルセンのけっさくだと思ふ。

人魚ひめなどはいないけれど、ごうじょうをはつていた人でも、アンデルセンの童話の世界にはいれば、いくら大金もちの人でも、こじきになつたり白鳥になつたりできる。アンデルセンのどうわをよんでいると、いくらごうじょうをはつていた人でもむちゅうでよみだす。

アンデルセンの童話は、そういうところからくちようだと思ふ。

この人魚ひめは、そのイセ表書きなものだと思ふ。

みんなの知っている童話(3)

はだかの王さまについてこのはだかの王さまのおすめもみんな知っていると思います。

この話は、いかにもこつていて、ゆかいな話です。

この話のよんだことのある人は、おすめと、いってもいいけど、一どはふきだしたり、わらつたりしたと、思います。

しかしこのさく品は、おすめの世界からしんじつのがたをみいだしてかいたのです。

うそをついたり、そういうところでもりこまれていきます。そういうところもあるわいなうがもう一ぺんよんでください。

はだかの王さま

ずっと、むかしの おはなしです。
うつくしい きもの が だいすきで、
まい日、一時間 ごとに、あたらしい
きもの と、とりかえて いる 王さま
が いました。

あるとき おばかさんには みえな い
きもの も、ある という 男 が 二人、
きました。 その 話を きいて、
かしこめな 王さま が、それを
きいて だまっ ている は ず が
ありません。 かつ かく きの もの
を おった もらう こと に なり ま
した。 でも 二人の 男 は まね が
かり ippō けん めい に やつ っ
て いる だけ でした。

何日 か たち ました。 王さま は
まちどおしく 二人の 大臣 に
見 にか せ ました。

でも 大 じん が み に いっ ても、ぜんぜん
見 え ません。 しかし 二人の 男 は、いか
にも みえ る よう に 話 し ます。
大臣 も 見、え ている よう に、
「うん、 そう じゃ の う。」
と、 いっ っ お り ました。

大 じん は、 みえ な かっ た の で す が、
く、びい になる と、 いけ な い の で
いか にも みえ て きた よう に 話 し
ました。

王さま は、 また べつ っ な け らい を 見 に
やら せ ました。 もちろん また、 け らい
も みえ ません。 一 つ も ばか もの と
いわれ くびい になる の も いや です。
や は り 見 て きた よう に は な し
ました。 いよいよ 一 つ き あ ざ り
王さま の おし ろ へ 二人の 男 が、 さら
のは この 中 に きもの が ひとつ

いるように王さまを はたかに
させつけさせました。

もちろん王さまにもみえま
せん。しかし王さまがばかづ
はこまります。

二人の男にあぐらを×りりつは
たきものをきたのようにどうどう
ときょうれつをつなきました。

町の人は王さまがすばらしい
きものをきてきょうれつをする
というので、みんな大どおりに
でつめていました。

しかしだれも、そのきものは
みえません。そのとき小さい
子どもがでつて「なんだー王さ
まは、はたかじゃないか」とい
いました。おとすよの人たちも
みんなきいてはいいと思つていま

した。とうとう町じゅう人が
さけびました。

「王さまは、たにもきていらしや
らない。はたかだ、はたかだ」と、
さけびはじめました。

こまつたの王さまです。

しかししかたなくとうとうさいごま
で「はたかだ」こうしんされたとい
うことです。



はだかの王さまを讀んで(3)

はだかの王さまは、すごくせん
をしたと思う。二人の男にお金
を、たくさんやり、それに町の
人から「はだかだ、王さまは
はだかだ」

と、いわれたときは、すごくはず
かしかったと思う。

王さまが、ようふくを、きつがき
にうけたったところのえが

P 20 に書いてあるが、

かがみは、うつらな、いし、なにも
も、うまい、うまい、と思ったときは、
と、いすに、あわてたかと思う。

だが、小さい子とも、かきさけんで
くれて、よかったと思う。

でも、さいごまで、きょうれつを
やったのは、えらいと思った。

みんなが知っている童話(4)
まとめ

まず、まえに書いた、マイアの
ぼろけん、人魚、ひめ、はだかの
まさま、のほかに、みにくいあそ
ぶの子が、あります。

まず、ここに、ゆたしが、たぶいて、しっ
ていると、思うものを、書きます。
もし、どれ、たけ、しっているか、見て
ください。

はくちやうの、王子	みにくいあそぶ
ここの、とり	パイをふんだむ
五つぷのえいどうまめ	空とぶかばい
のろまのハニズ	赤いくつ
一本、足のへたい	雪の、女王

これぐらいは、みんな、しっていると思いき、
つぎに、かくのは、たいていの人は、
しっているけれども、しっていない人も、多い

— 23 — みんながちゃんと知らない童話
(1)

というものです。A22ページ
のようにもういちど、知って
いるか見てください。

ひみつ
おれつあん のするこは
ぶたがい王子
マ X の上のおめさま
モミの木
ねむりの精

五十金ぎんか
お月さまの ちぎ
いねとらっは
リバ
モミの木

このぐらゐは みんなしっ
いると思います。
このうちから ひみつと
五十金ぎんかを
おとど け いただきます。

このひみつと五十金ぎんかを
よんだらもういちどこのページ
をみてください。

五十金ぎんかと ひみつを
よんだらおとど けたら
いる、くもいるかも知れません。

— 24 —

みんながちゃんと知らない童話
ひみつ (2)

むかし中国に王さまがいました。
王さまは、ちやうせんの王さまと
とてもたががよかったのです。
あるとき、ちやうせん王さまから
一さつの本がとどきました。
りようががの本で中国のことが
かいてありました。

それには 一つ
「夜 たくうぐいすがいる。
このうぐいすはしわしかいてよく
その声は世界中にふたつとよい
だろう。」

と書れてありました。
王さまは、すぐけらゐに
「その夜 たくうぐいすを
さがせ。」

と、めりじられました。
けらゐたちは、ふつと夜たく

うぐいすをさがしてきました。
その声も王さまにきかせ
ました。ごつんの人みんな、その
声にうっとりしました。

ところが、またちょうせんの王さま
からおくり物がかきました。

こんども本がきたのかと思つた
のだが、こんどはうぐいすの
おもちゃでした。その声もすば
らしい声でしたけどやはり
夜はくうぐいすにはかたまりま
せん。

しかし王さまはおもちゃのう
ぐいすばかりかわいがり

とうとう夜はくうぐいすを
おいたしてしまいました。

それからまもなく王さまが
重い病気にガガリました。

あすがもしれなりのちでした。

王さまはうぐいす声がかきたくて
病気になつたのでした。

あのおもちゃのうぐいすがこわれて
たれでもよいからなおせるもの
と、たてふたごまでたてしましたけれども
たれもおされません。

もうみやくがよやく目をとじよう
としたとき、つと夜はくうぐいす
が、ふたたびもどつてきました。

王さまはきゅうにみやくもただし
くなり元気になりました。

そして夜はくうぐいすにあやまり
うぐいすと夜だけしかたなく
てもいいよ。とやくやくし、これ
は、たれもしらないう
夜はくうぐいすと王さまで
ひみつとなりました。

ひみつを話して(1)

このひみつの話しにでてくる
王さまは ちやと 自分かっただと
思 う。

でも 夜がよく うぐいすは
声も うつくしかったけれども
心も うつくしかったのだと
思 う。

でも もしわたしが、中国の王さま
だったら やはり 夜がよくうぐいす
を おいだしてしまふかもしれない
と 思 う。 だれでもあたらしいもの
が くる と 今までつかっていたも
のが いやになるそれとおなじ
だ ろうと 思 う。

でも 王さまは 夜がよくうぐいすを
好きだったのだらうと 思 う。
きつと うぐいすと ちやとくし
たことは 守るだらうと 思 う

五十金銭ぎんか

五十金銭ぎんかが、どういふ局からでてしま
した。 五十金銭ぎんかは、はじめて
広い世界にでました。

子ども おととよ けちんぼとよ人
まずいい人 きれいな人 わかもの
といろいろとよ人の手にわたりました。
ところが、ぎんかが、外国旅行に
でている紳士のさいふの中に
はいりました。

その男は、まだ本国のお金が
はいつていたとよんでしりません。

男が見つけたとき

「まあいいや いっしょに旅行に
つれてつてやろう」といいました。

だが五十金銭ぎんかは、紳士のさ
いふからでてしまいました。

だが、五十金銭ぎんかがおちた
国は、生まれた国ではありません

がした。そのためににせのお金だといわれ つぎつぎと人の手にわたつてしまいました。あるときおばあさんのところにきました。おばあさんは「これはつかえないにせ金だ」と、いって五十銭ぎんかにあなをあけ糸をとおり男の子の首にかけてやりました。しかしその子の父親がとみくじやにもっていききました。とみくじやはだめだというにきまつているのですがとてもいそがしかったのではこの中に入れてしまいました。でもそのつぎの日に、「にせ金だ」といわれある人の手にわたりました。でもあることから本国の紳士の手にわたる「いいお金だ」といわれてつかわれたいということです。

五十銭ぎんかを読んで (2)

わたしは五十銭ぎんかの作家アンデルセンだったらただの五十銭ぎんかとはしてよく「五十銭ぎんかのたひ」とか「五十銭ぎんかの旅行」または「五十銭ぎんかのぼうけん」と名まえをつけたと思います。この五十銭ぎんかのお話はもちろんのこと、名まえもしら「はい」がいます。でものお話もおもしろかったと思います。まだこのほかにたくさんあるのですが代表のその二つを書きました。

みんなあまり知られてない童話 (1)

ここに書くのは、みんなから
あまりよまれて、ない童話ですが
六年から中学生以上の人は
よくしっている童話だと思ひます。
下の表に少だけ書きますから
みなさん、もういちどみて下さい
五年以下の人で全部しってい
る人がいたらえらいと思ひます。

カタツムリとバラの木 おに火が町に出ると ぬまのはあやがいました 銀貨 ペータと僧正 子どもペヤで 茶びん かさなみどりもの おばあさん ヒギガエル ほろきれ おれが一番幸福だったか	ニッセとおくさん イタとポタとローア はまっていることは 門番のむすこ ひつこしの日 夏よび草 金のたから島 民よりの島 しまっていること はわすれたのはおれ 名づけの親の絵本 ベーン島とグリーン島
--	--

どうです、知っているのは
いくつだったでしょう。

- 32 - アンデルセン童話について

アンデルセンについて
このアンデルセンの作品の
どれもが、みんなあじょうゆたか
です。

アンデルセンの生まれた
東のシベ (バルトシベ) 北のシベ (北海)
の間には生まれたところに
はくちようの古すがかかっています
その名はデンマークとよばれて
います。

デンマークはスカンジナビアでは
いちばん南にあるため
気候風土にくらべて温和
で高い山もよく国をいたが
みどりの森や牧場におおわれて
います。この自然の中に
アンデルセンが生まれたのです。

カニデル童話 (2)

今日のデンマークは小さな
国です。むかしは広い領土
をもっていました。が、まず
イギリスをうしなひ、スコーネ地方
をスウェーデンにとられ、ホルウェー
と兄弟国関係をたちきられ
また、シュレスビヒ地方をドイツ
にうばわれ、せまい国に
なつてしまいました。

人口みづきはスカンジナビアで
いちばん高いのですが
それ、四百五十万人ほどにすぎな
い。

カニデルセニ童話の 研究して

わたしは、カニデルセニ童話の
研究をして、こうかい
してよく、よかったと思います。
このカニデルセニ童話の
研究をしてわかったことは
まだ、みんなに言われて
ない、が、たくさんあると
いうこと。

四書 かにいけば、

いろんなカニデルセニの本や
みんなにあまり知られてない
カニデルセニの本が
ありますから、みんなよく
もらいたい、という事です。
このわたしの研究をみた人
は、ここに書いてあることを
一度でけつこうです。

四 書 かんて 本をかりるが
 四 書 の 時 間 によんでくれた。
 それから アニデルセニは
 そんなことからでも 童話を
 作りだすという事です。
 たとえば みんなにあまりしら
 れてない 童話でおめにかけ
 た『金貨』は イタリア旅行中
 に ナビダ = ベッキア から
 リ ボルノへの 船 の 中 で けい
 がえを したところ に 金貨
 を つかまされて、だれもうけ
 と しようとしないの で しやく
 に さわっとき この 話をかいたの
 でした の この 話によつて
 たゞまされた お金 を とりもど
 したので あります。

ここに もう 一と みんなの 矢口で
 いる 童話 とき
 一と ちゃんと 知らない 童話
 一と あまり 知られてない 童話
 一と は みんな 知っている 童話 から

はくちょうの 王子
 五つ子の 王子
 五つ子の 王子
 の 王子の ハンス
 赤い 王子
 マリアの 王子
 王子の 王子
 はくちょうの 王子

みにくい 王子の子
 ハンスを 王子
 王子と 王子
 王子の はくちょう
 王子の 王子
 マリアの 王子
 王子の 王子
 はくちょう

みんな ちゃんと 知らない 童話

王子の 王子
 おとつあん 王子
 王子の 王子
 王子の 王子
 王子の 王子

王子の 王子
 おとつあん 王子
 王子の 王子
 王子の 王子
 王子の 王子

つぎは みんなに 知られてない
 童話

火 うち 糸^紐
お^あ物^{モノ}言^{言葉}吾
ミウ^{ミウ}の新しい木の
古^{ふる}かしの木のま
沼^{ヌマ}の王^{オウ}のむすめ
ほうき澤
アムケルのおばさん
いざり)
ニッセのおくさん
ヘクターヘクターとポー
はってあるとはゆみない
門番のむすこ
ひつこしの日
夏よびに草
金のたから
もの
民^{タタ}ようの小島
いぼろき小
バーニ島とグ

旅の道づれ
あま
不死鳥
二の ゆめ
十二人乗りの馬車で客
二つのろうそく
二 きくがよい
カタツムリトバラの木
おにやがたに出ると
ぬまのおばさんがいました。
風車
銀貨
ハックルベリと僧正
子どもは
小さなみどり
おばさん
ヒニガエル
あづけの親絵本
しーニ 島

つがったさいことう書
アニマルセン童話
系会のてよに系云話

アニデルセニ童話集

お 田 子